

三河港港湾計画検討委員会（第1回委員・幹事合同委員会）における主な意見と対応（案）

【『物流』に関する意見】	対応（案）	本編資料 該当ページ	参考資料集 該当ページ
東三河や三遠南信地域における農産品や木材などの特産品を三河港から出荷できるようにするための仕掛けづくり・仕組みづくりが必要。	別途実施しているWGでの検討内容を踏まえ、貨物の利用促進に必要な港湾機能の検討を進めていく。	30	11～15
主要貨物である自動車の動向及び自動車運搬船の大型化への対応が必要。	自動車取扱の現況や今後の見通し（企業ヒアリング・アンケートを実施予定）を踏まえ、必要な港湾機能の検討を進めていく。	29	16～24
浜松三ヶ日・豊橋道路など三河港背後の物流網の大きな変化への対応が必要。	港背後圏における広域交通網の整備を踏まえ、必要な港湾機能の検討を進めていく。	30、31	9～10
三河港の一番の弱点は交通ネットワークであり、三河港の発展に繋がる実現可能な臨港道路東三河臨海線のルート検討が必要。	港背後圏における広域交通網の整備を踏まえ、必要な港湾機能の検討を進めていく。	30、31	9～10
三河港の機能強化と浜松三ヶ日・豊橋道路の整備は世界を相手とする原動力になる。	港背後圏における広域交通網の整備を踏まえ、必要な港湾機能の検討を進めていく。	30、31	9～10
人口減少を見据えた港機能の自動化が必要。	別途実施しているWGでの検討内容を踏まえ、物流高度化に必要な港湾機能の検討を進めていく。	29～31	16～24
港背後地における冷蔵貯蔵施設の整備による農産品の輸出・移出拠点が必要。	別途実施しているWGでの検討内容を踏まえ、貨物の利用促進に必要な港湾機能の検討を進めていく。	30	12～14
物流貨物が港で停滞しないよう他の輸送手段に繋げるためにも臨港道路の整備は非常に重要。	港背後圏における広域交通網の整備を踏まえ、必要な港湾機能の検討を進めていく。	30、31	9～10
浜松三ヶ日・豊橋道路などの道路体系をしっかりと後背圏の作り方の中で考えていくことが重要。	港背後圏における広域交通網の整備を踏まえ、必要な港湾機能の検討を進めていく。	30、31	9～10
AIや自動走行などの新機軸で、自動車産業・自動車技術の港という形のモデル化。	別途実施しているWGでの検討内容を踏まえ、物流高度化に必要な港湾機能の検討を進めていく。	29	16～24
自動車輸送のための自動運転特区や道路改良などのハード支援も含めて物流の効率化に向けた仕掛けが必要。	別途実施しているWGでの検討内容を踏まえ、物流高度化に必要な港湾機能の検討を進めていく。	29	16～24
自動車のより効率的なストック方法を探る必要がある。	別途実施しているWGでの検討内容を踏まえ、物流高度化に必要な港湾機能の検討を進めていく。	29	16～24
貨物鉄道や空港、高速道路へのアクセス至便な立地を活かした三河港の物流体系の構築が必要。	港背後圏における広域交通網の整備を踏まえ、必要な港湾機能の検討を進めていく。	30、31	9～10
三河港は、西三河・東三河・三遠南信と広い後背圏を持っており、道路整備などによって繋がっていく。	別途実施しているWGでの検討内容を踏まえ、貨物の利用促進に必要な港湾機能の検討を進めていく。	30	2、7、9～10、32
港が価値を上げ、港の機能を果たすためには背後の道路整備が必要。	港背後圏における広域交通網の整備を踏まえ、必要な港湾機能の検討を進めていく。	30、31	9～10
静穏度の確保と用地不足を同時に解決する必要がある。	安全な荷役と効率的な物流を両立するため、必要な港湾機能の検討を進めていく。	—	30、33～35
ロジスティックの観点から港の背後圏の取り込み及び重要物流道路の再検討が必要。	港背後圏における広域交通網の整備を踏まえ、必要な港湾機能の検討を進めていく。	30、31	9～10
倉庫があればまだまだ既存貨物を増やせる。	港の既存利用形態を踏まえ、新規用地整備や埠頭用地の再編等を含めて、必要な港湾機能の検討を進めていく。	30、33	32～35
三河港の発展には、各地区を臨港道路で繋げることが重要。	港背後圏における広域交通網の整備を踏まえ、必要な港湾機能の検討を進めていく。	30、31	9～10
荷主・船社に選ばれるために、北西風が強い状況で船の係留方向など考慮した拠点地区の配置が重要。	安全な荷役と効率的な物流を両立するため、必要な港湾機能の検討を進めていく。	—	30、33～35
航路の拡幅や静穏度の確保などの課題に対して、適切な航行安全対策を取りまとめるとともに、海域利用者などの合意形成を図る必要がある。	必要な船舶航行安全検討を実施し、海域利用者を始め関係者との合意形成を図る。	—	30
港が整備され輸出入貨物が増加すると指定保税地域の拡大が必要になる。	取扱貨物量の推計結果等を踏まえ、必要に応じて検討を進めていく。	30	33～35
三河港背後の道路網整備と併せて、トラック輸送から海上輸送への転換からフェリーやRORO船の寄港誘致により更なる三河港の発展が考えられる。	モーダルシフト需要等も視野に、必要な港湾機能の検討を進めていく。	31	25～29
自動車産業の将来展開に寄り添うような施策、港づくりが必要。	自動車取扱の現況や今後の見通し（企業ヒアリング・アンケートを実施予定）を踏まえ、必要な港湾機能の検討を進めていく。	29	16～24
船舶の航行安全や海上災害対策の観点から、航路や岸壁の水深確保や防波堤などのハード整備、安全確保のためのソフト対策についてしっかり検討してほしい。	必要な船舶航行安全検討を実施するとともに、港湾BCP等のソフト対策の強化について検討を進めていく。	34	30、52～56

【『産業』に関する意見】	対応（案）	本編資料 該当ページ	参考資料 該当ページ
産業界に三河港に目を向けてもらうための活動が必要。	別途実施しているWGでの検討内容を踏まえ、貨物利用促進及び物流高度化に必要な港湾機能の検討を進めていくとともに、ポートセールスにより三河港の利用促進を図る。	29～31、33	13～18
現在未使用の浜町貯木場跡地を埋め立て有効活用し、新たな企業誘致を行い地域の活性化に繋げたい。	港の既存利用形態を踏まえ、新規用地整備や埠頭用地の再編等を含めて、必要な港湾機能の検討を進めていくとともに、ポートセールスにより三河港の利用促進を図る。	—	15、33～35
集積する企業の維持的基盤づくりとして、コンテナを利用する企業誘致の強化が必要。	別途実施しているWGでの検討内容を踏まえ、貨物の利用促進に必要な港湾機能の検討を進めていくとともに、ポートセールスにより三河港の利用促進を図る。	30	13～15
多様な企業を港湾計画・港湾運営にどう結びつけるかが重要。	これからの港湾運営の在り方について、関係者と共に検討を進める必要がある。	全般	全般
自動車以外の貨物について利用促進する必要がある。	別途実施しているWGでの検討内容を踏まえ、貨物の利用促進に必要な港湾機能の検討を進めていく。	30、31、33	13～15
田原地区の利用促進には水深10mの耐震強化岸壁が必要。	近年の取扱貨物需要や大規模地震対策施設として、現計画において田原地区に耐震強化岸壁（-10m）が位置付けられている。	—	53
様々なアイデアの中から自動車の次の貨物を見出していく必要がある。	別途実施しているWGでの検討内容を踏まえ、貨物の利用促進に必要な港湾機能の検討を進めていく。	30、31、33	13～15
新規貨物を取り込むために老朽化した港の再整備が必要。	維持管理計画に基づき適切に管理していくとともに、港湾施設の再編も視野に入れた検討を進めていく。	—	58
港の活性化のため、未使用の貯木場を埋め立て企業を誘致することが必要。	港の既存利用形態を踏まえ、新規用地整備や埠頭用地の再編等を含めて、必要な港湾機能の検討を進めていくとともに、ポートセールスにより三河港の利用促進を図る。	—	15、33～35
東三河や三遠南信及び中部地域のGRPにとって三河港が果たす生産拠点としての非常に高い価値を港湾計画に反映する観点、物流プラス生産拠点の効率化という観点が必要。	港の既存利用形態を踏まえ、新規用地整備や埠頭用地の再編等を含めて、必要な港湾機能の検討を進めていくとともに、ポートセールスにより三河港の利用促進を図る。	—	15、33～35
港湾計画の中で第三セクターをどのように位置づけ活用していくかという視点が必要。	これからの港湾運営の在り方について、関係者と共に検討を進める必要がある。	全般	36
【『人流・交流』に関する意見】	対応（案）	本編資料 該当ページ	参考資料 該当ページ
自動車運搬船やクルーズ客船が、風速による入港制限を踏まえて安全に入港できるよう航路の拡幅が必要。	船舶航行安全検討を実施し、必要な港湾機能の検討を進めていく。	—	30
蒲郡駅からみなのオアシスがまごおり・竹島周辺にかけてのまちづくり。	観光地や集客施設、交通結節点の位置関係を踏まえ、スムーズな人流動線の確保や港の賑わいに必要な港湾機能の検討を進めていく。	32	37～43
みなのまちづくりの観点から、後背圏を複数のスケールでとらえ、各スケールでのネットワークを検討することが重要。	広域では東三河・三遠南信地域、直背後では港周辺の4市といったスケールを視野に入れ、それぞれの交通網の整備を踏まえ、必要な港湾機能の検討を進めていく。	32	9～10、37～43
愛知県は将来的には観光産業がものづくりを凌駕する産業になる。	物流の観点だけではなく、観光を通した賑わいの創出について必要な港湾機能の検討を進めていく。	32	37～43
クルーズ船に地元農産物などの食材を提供するなどの仕掛けが必要。	クルーズ船の寄港に必要な環境や周辺の物流産業との機能分担等の観点から、必要な港湾機能について検討を進めていく。	32	37～43
蒲郡をゲートウェイとして、そこでしかない地域のブランド化が重要。	観光地や集客施設、交通結節点の位置関係を踏まえ、スムーズな人流動線の確保や港の賑わいに必要な港湾機能の検討を進めていく。	32	37～43
クルーズ船の入港を増やし、物流と観光が両立できる港を目指して欲しい。	クルーズ船の寄港に必要な環境や周辺の物流産業との機能分担等の観点から、必要な港湾機能について検討を進めていく。	32	37～43
自動車運搬船やクルーズ船の大型化に伴い航路の拡幅及び岸壁周辺の浚渫が必要。	船舶航行安全検討を実施し、必要な港湾機能の検討を進めていく。	—	30
スーパーヨットの誘致には、係留手続きの簡素化など停泊のし易さと絶対的に訪問したくなる魅力が必要。	近年増加しているスーパーヨットの寄港について、他港事例の収集等により必要な港湾機能について検討を進めていく。	32	41
オーナーだけではなくクルーが寛げるような対策が必要。	近年増加しているスーパーヨットの寄港について、他港事例の収集等により必要な港湾機能について検討を進めていく。	32	41

【『環境』に関する意見】	対応（案）	本編資料 該当ページ	参考資料 該当ページ
用地の確保と水環境との共存が課題。	別途開催している環境アドバイザー会議での内容を踏まえ、開発と水環境の共存のあり方を検討していく必要がある。	－	44、51
自然豊かな豊橋だから可能となるようなSDGsとしてPRできる環境保全の取り組みを検討したい。	SDGsの観点で、自然環境保全の取り組みのみならず、再生可能エネルギーの普及等も踏まえ、環境面での三河港の特色を生かした港湾機能について検討を進めていく。	33	8、44～51
未利用地の活用について、CO2削減の観点からバイオマス発電所の検討が重要。	近年のバイオマス発電所立地需要をはじめ、背後企業の利用実態の整理及び企業ヒアリング・アンケート等を踏まえ、未利用地の適切な活用方法について検討を進めていく。	33	49
三河港内の水質について、環境も大きく変化しているなか、これまで取り組まれてきた環境保全対策で大きな改善が見られない、とまでは一概に言えないため、少し表現を変えた方が良いと思う。	今後、同資料を使用する場合は表現を修正する。	－	－
【『安全・防災』に関する意見】	対応（案）	本編資料 該当ページ	参考資料 該当ページ
駅から近い竹島ふ頭岸壁の耐震化により、災害時の物資配送拠点として貢献したい。	既定計画に位置付けられている耐震強化岸壁を含め、背後圏被災人口やBCPを踏まえた物資輸送計画等を踏まえ、必要な港湾機能について検討を進めていく。	34	52～57
国土強靱化の観点から大型船舶の接岸可能な水深10mの耐震強化岸壁の整備が必要。	既定計画に位置付けられている耐震強化岸壁を含め、背後圏被災人口やBCPを踏まえた物資輸送計画等を踏まえ、必要な港湾機能について検討を進めていく。	34	52～57
BCPの観点から自然災害リスクに対して、南海トラフ地震のみでなく風水害の高潮による災害リスクを検討することが重要。	神野・明海地区におけるエリア減災計画等の内容を踏まえ、必要な港湾機能について検討を進めていく。	34	52～57
災害による生産拠点への影響度を考慮する必要がある。	港湾BCPや神野・明海地区におけるエリア減災計画等の内容を踏まえ、産業への影響度について整理した上で、必要な港湾機能について検討を進めていく。	34	52～57
現状で港に存在する公園などについて、防犯という観点も含めて大きな見直しが必要。	港湾緑地の配置等にあたっては、緑地の現況や他港事例等も踏まえながら、適切な規模や配置について検討を進めていく。	－	59
岸壁の耐震化など三河港のハード整備による強靱化対策に配慮して欲しい。	既定計画に位置付けられている耐震強化岸壁を含め、背後圏被災人口やBCPを踏まえた物資輸送計画等を踏まえ、必要な港湾機能について検討を進めていく。	34	52～57
三河地域は災害に対して非常に意識の高い地域であり、防災への取り組みに関して国の最新情報などを基に全国に先駆けて実践できる港にしたい。	災害対策の検討にあたっては、国における防災への最新の取り組み等を踏まえた検討を行っていく。	34	52～57
【『三河港全体』に関する意見】	対応（案）	本編資料 該当ページ	参考資料 該当ページ
豊橋市民にとって港までの距離感が課題。	市民の憩いの場としての親水拠点の形成など、市民と港の距離感を近づけるために必要な港湾機能について検討を進めていく。	全般	全般
物流と豊かな観光資源・水産資源とのバランスのとれた港湾機能の強化が求められている。	物流、観光、環境の観点のみならず、水産資源の維持という視点も踏まえ、必要な港湾機能について検討を進めていく。	29～32	全般
三遠南信の県境を越えて、後背圏側からこの港は自分達の港だと思ってもらえる仕組みやプランが重要。	港背後圏における広域交通網の整備を踏まえ、必要な港湾機能の検討を進めていくとともに、ポートセールスにより三河港の利用促進を図る。	全般	9、10、15、33～35
荷主・船社に選ばれるみなとづくりは、AIやIoTを活用した物流の効率化だけではなく、他の要因についても早い段階で長く時間をかけて検討する必要がある。	物流、産業、人流・交流、環境、防災の5本の柱を中心として、多視点的にみなとづくりを俯瞰し、必要な港湾機能について検討を進めていく。	全般	全般
ポートセールスの主体・方法について検討してもよい。	港背後圏における広域交通網の整備を踏まえ、必要な港湾機能の検討を進めていくとともに、ポートセールスにより三河港の利用促進を図る。	30、31	15
産業と観光（消費）の複合による、港を通じた人間の豊かな生き方の実現が最終目的である。	物流、産業、人流・交流、環境、防災の5本の柱を中心として、多視点的にみなとづくりを俯瞰し、必要な港湾機能について検討を進めていく。	全般	全般
船ではなく、海の上空をドローンで移動する基地など新たな港湾機能を検討したい。	別途実施しているWGでの検討内容を踏まえ、物流高度化に必要な港湾機能の検討を進めていくとともに、ドローン等の新たな輸送手段について、港湾での可能性も含めて整理する。	29、30	22～24、33～35
三河港にとって市民の港という意識の醸成が必要。	物流機能を中心とした機能拡充を進めるとともに、市民の憩いの場としての親水拠点の形成など、市民と港の距離感を近づけるために必要な港湾機能について検討を進めていく。	全般	全般
パブリックコメントで一般市民に港を理解してもらうには、絶対に変わることのない港の歴史、ルーツについて示す必要がある。	市民の三河港への理解をより一層深めるために、三河港の歴史やルーツ、発展経緯等を整理する。	1～21	－
30年程度先を見据えた長期構想から港湾計画を検討する際、絵に描いた餅にならないように具体的に精緻な理屈づけに基づいて形づくる必要がある。	これまでの港湾計画の変遷について整理するとともに、港湾整備の目的や効率的な機能配置について具体的かつ精緻な理屈付けに基づいて検討を進めていく。	14～21	－